

経営改善及び連携・活用に関する取組評価
(令和5(2023)年度)

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団		所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
経営改善及び連携・活用に関する方針				
法人の概要	1 法人の事業概要 ・生涯学習に関する学習機会及び情報の提供並びに活動支援事業(かわさき市民アカデミー協働事業、青少年学校外活動事業、生涯学習プラザ施設提供事業、シニア活動支援事業、生涯学習に関する情報収集、情報提供及び調査研究事業など) ・生涯学習関連施設管理運営事業(大山街道ふるさと館、子ども夢パークの指定管理) ・生涯学習活動及び情報に関する運営管理受託事業(寺子屋先生養成講座の受託など) ・収益事業(生涯学習に関する多彩な体験講座事業など) 2 法人の設立目的 川崎市における豊かな生涯学習社会の実現を図るため、教育、学術及び文化等に関する各種の事業を行うとともに、市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、活力に満ちた市民自治社会の構築に寄与することを目的としています。 3 法人のミッション ・全市的・広域的な視点から市民の課題解決に向けた生涯学習の支援を推進します。 ・シニア活動支援事業やかわさき市民アカデミーへの支援など、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習の場を提供します。 ・中間支援組織の特性を活かして学校教育やNPO法人、民間事業者、大学等との多様な連携により事業を展開します。			
本市施策における法人の役割	本市の生涯学習の推進のために、全市的・広域的視点から市民の課題解決に向けた生涯学習の支援を行うとともに、シニア活動支援事業、かわさき市民アカデミーへの支援など市民の高度・専門的な学習ニーズに対応した学習の場を提供し、学校教育やNPO法人、民間事業者、大学等の多様な主体との連携により、市民の学習成果を学校教育や青少年の学校外活動、まちづくりに活かせるよう地域の人材を育成するほか、市民の誰もが、いつでも、どこでも自主的・主体的に生涯学習に取り組めるような環境づくりを進めます。			
	法人の取組と関連する市の計画	市総合計画上関連する政策等	政策	施策
		関連する市の分野別計画	政策2-3 生涯を通じて学び成長する	施策2-3-2 自ら学び、活動するための支援
現状と課題	1 現状 市民の健康で生きがいのある、創造性と個性を生かせる活力ある地域生涯学習社会の形成と振興に寄与することを目的として設立された、川崎市生涯学習財団は、市民の生涯学習の支援を行うとともに、学習の場の提供や多様な主体との連携により地域人材の育成や環境づくりを進めています。これまでも新たな事業の展開や受講料・施設使用料の改定、組織体制や各事業等の見直しを行い、収益の改善並びに経費の削減に取り組んでまいりましたが、平成22(2010)年度から恒常的な赤字が続いています。 2 課題 ・公益財団法人の設置目的や役割に基づき、全市的な視点で各事業を継続的・効果的に実施するためには、社会情勢に応じて事業内容の見直しが必要となっています。多様化するニーズを踏まえ、魅力的な事業の実施や快適性・利便性向上のための環境整備、新しい生活様式に対応した取組等が求められています。 ・公益財団法人として社会状況の変化、施設利用ニーズに適切に対応していくためには、引き続き収益事業・施設提供事業による収益増加に取り組むほか、組織体制や事務分担、各事業、委託業務等の見直しを推進し、経営基盤の強化を図っていくことが必要となります。			
取組の方向性	1 経営改善項目 ・魅力的かつ多彩な講座の展開、施設の快適性・利便性の向上、施設利用促進に向けた広報強化等の推進により収益の増加を図り、安定的な自己財源の確保と経営基盤の強化を図ります。 ・各事業における恒常的な内部事務の精査や集約化、手法の変更等による事務経費の削減及び組織体制・事務分担の見直しを行い、効率的・効果的な執行体制にすることで、事業運営のさらなる効率化を推進し、コスト削減を図ります。 ・安定的な財政基盤の確保のため、収入の増加及び管理費の削減に向けた取組を着実にを行い、より一層の自主・自立した経営を目指します。 2 連携・活用項目 ・中間支援組織の特性を活かし学校教育やNPO法人、民間事業者、大学等との多様な連携を進めるため、本法人への適切な助言・指導を行いながら、市民の学習機会の充実を図ります。 ・市民が主体的に学ぶ機会を提供したり、生涯学習に関する相談や情報誌の発行、ICTの活用による情報提供等に取り組むなど、自らの知識や技術を地域づくりに活かすための活動を支援していきます。 ・市の「地域の寺子屋事業」との連携を図りながら、シニア世代をはじめとする地域人材の知識と経験を活かして、地域ぐるみで子どもたちの学習や体験をサポートし、多世代で学ぶ生涯学習の拠点づくりを進めます。			

本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

4力年計画の目標

- ・本市の生涯学習の推進のために、全市的・広域的視点から市民の課題解決に向けた生涯学習の支援を行います。
- ・かわさき市民アカデミーへの支援を通して市民の高度・専門的な学習ニーズに対応した学習の場を提供するとともに、学校教育やNPO法人、民間事業者、大学等の多様な主体との連携により、市民の学習成果を学校教育や青少年の学校外活動、まちづくりに活かせるよう地域の人材を育成するシニア活動支援事業を推進します。
- ・市民の誰もが、いつでも、どこでも自主的・主体的に生涯学習に取り組めるような環境づくりを進めます。
- ・また、公益財団法人としての使命をより積極的に果たしていくため、収益事業・施設提供事業等による収益増に取り組むほか、組織体制や事務分担、各事業、委託業務等の見直しにより、効率性を高めることでコスト縮減を図り、安定的な経営基盤を確保します。

1. 本市施策推進に向けた事業取組

取組No.	事業名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度 (※1)	本市による評価 ・達成状況 (※2) ・費用対効果 (※3)	今後の取組の 方向性 (※4)
①	生涯学習に関する学習機会提供及び活動支援事業	事業参加者数	7,327	9,500	8,735	人	b	B	I
		事業参加者満足度	—	82	86	%	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	20,175 (25,377)	19,240 (27,461)	20,420 (26,654)	千円	2)	(2)
②	生涯学習に関する情報収集、情報提供及び調査研究事業	ホームページアクセス数	215,584	220,000	376,225	件	a	A	II
		学習情報掲載件数	2,161	2,100	2,343	件	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	9,064 (11,745)	10,911 (12,522)	10,227 (11,951)	千円	1)	(1)
③	寺子屋先生養成事業	寺子屋先生養成講座を受講した人数	198	165	138	人	c	C	II
		寺子屋先生養成講座受講者満足度	—	82	99	%	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	742 (742)	858 (858)	1,091 (1,091)	千円	4)	(2)

2. 経営健全化に向けた取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の 方向性
①	自主財源の増加	授業料等収入の増加	25,371	28,578	29,383	千円	a	A	I
		施設使用料収入の増加	22,735	22,886	25,927	千円	a		
②	収支改善	経常収支比率の推移	100.2	99.2	101.2	%	a	A	I
		正味財産の推移	295,312	281,132	297,490	千円	a		

3. 業務・組織に関する取組

取組No.	項目名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和5 (2023)年度)	実績値 (令和5 (2023)年度)	単位	達成度	本市による評価 ・達成状況	今後の取組の 方向性
①	人材育成研修の実施	研修の参加人数	88	93	107	人	a	A	I
②	事業・業務の点検	実施回数	46	49	49	回	a	A	I

(※1)【a. 目標値以上、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

(行政サービスコストに対する達成度については、1). 実績値が目標値の100%未満、2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満、3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満、4). 実績値が120%以上)

(※2)【A. 目標を達成した、B. ほぼ目標を達成した、C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった、D. 現状を下回るものが多くあった、E. 現状を大幅に下回った】

(※3)【(1). 十分である、(2). 概ね十分である、(3). やや不十分である、(4). 不十分である】

(※4)【I. 現状のまま取組を継続、II. 目標の見直し又は取組の改善を行い取組を継続、III. 状況の変化により取組を中止】

法人及び本市による総括

【令和4(2022)年度取組評価における本市の総括コメントに対する法人の受止めと対応】

・令和4(2022)年度の取組評価の結果を踏まえ、令和5(2023)年度においては、「本市施策推進に向けた事業取組」における生涯学習に関する学習機会提供及び活動支援事業について、高齢化社会を意識したテーマでの実施や受講者の声を捉えた事業を取り入れ事業内容の見直しを図りました。事業参加者数は、目標値を達成できなかったものの、前年度よりも参加者を増やすことができ、事業参加者満足度については、目標値を達成しました。また、生涯学習に関する情報収集、情報提供及び調査研究事業については、情報を求める方々が探しやすいように、分野・地域・日程・フリーワードなどで検索できるようにするなどアクセスしやすくなるための取組やホームページを適宜更新し、時期を意識した特集を積極的に掲載することで、アクセス件数は目標値を大幅に超えました。市内各種のイベントも積極的に情報収集し、情報掲載件数も目標値を達成することができました。

・「経営健全化に向けた取組」については、自主財源の確保とともに管理費の縮減に努めました。光熱水費の高騰をはじめとした諸物価の高騰についても、光熱水費は12月から開始し2月末に完了した全館照明のLED化工事の効果もあり、電気料の増額を抑制することができました。

・「業務・組織に関する取組」については、適切な時期に適切な研修内容により、スキル向上の取組を継続して実施してきました。

・今後も公益財団法人として市の施策と連携し、豊かな生涯学習社会の実現移向けて、経営の改善に努め、中間支援組織としての役割を着実に果たしてまいります。

【令和5(2023)年度取組評価の結果を踏まえ、本市が今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など】

・「本市施策推進に向けた事業取組」について、「事業参加者数」は目標値を達成することはできませんでしたが、日々の受講者の声を捉えた事業立案や、ホームページの工夫等を行ってきたことにより「事業参加者満足度」や、「ホームページアクセス数」が目標値を上回ったこと、また、「寺子屋先生養成講座を受講した人数」は目標値を達成することはできませんでしたが、「寺子屋先生養成講座受講者満足度」は目標値を達成することができたことは評価できます。

・「経営健全化に向けた取組」については、授業料等収入など、自主財源の確保を図るとともに、管理費の縮減にも努め、「自主財源の増加」及び「収支改善」における各指標の目標値を達成できたことは、評価できます。

・「業務・組織に関する取組」については、人材育成研修を実施した上で、適切に事業・業務の点検を行い、次年度の事業計画へ反映させたことは評価できます。

・今後も、公益財団法人として全市的・広域的に生涯学習の支援を行うとともに、多様な団体と協力・連携しながら、本市の生涯学習の推進に寄与することを期待します。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

1. 本市施策推進に向けた事業取組①(令和5(2023)年度)

事業名	生涯学習に関する学習機会提供及び活動支援事業
計 画 (Plan)	
現状	高い専門性を備えた継続的で系統的な学びの場であるかわさき市民アカデミー協働事業や川崎市の子どもたちが、友好自治体との交流を行うサマーキャンプなどの青少年学校外活動事業、シニア世代を対象に、これまで培ってきた経験や知識を活力ある地域社会づくりや学校支援に活かすシニア活動支援事業などを行っています。
行動計画	・かわさき市民アカデミー協働事業については、事業広報や会場の確保、対外活動支援等を継続して実施し、参加者の増加を目指します。 ・青少年学校外活動事業については、内容の充実を図るほか事業内容の魅力の向上に努め、定員までの充足を目指します。 ・シニア活動支援事業については、生涯学習ボランティアの養成講座の実施と学校等への生涯学習ボランティアの派遣、学習した知識・経験を活かし地域貢献をめざす市民アカデミー地域協働講座、シニア活動講演会を継続して実施し、生涯学習に取り組むシニア世代の拡充を目指します。 ・その他支援事業については、ランチタイムロビーコンサート等を継続して実施し、本法人が実施する各事業の周知に努めます。
具体的な取組内容	・かわさき市民アカデミー協働事業については、事業広報や会場の確保などの対外活動支援等を継続して実施し、参加者増に努めます。 ・青少年学校外活動事業については、事業内容の充実を図りながら、受入れ自治体の状況も考慮して「ふれあいサマーキャンプ」を実施します。 ・シニア活動支援事業については、生涯学習ボランティア養成講座の効果的な実施と活動機会の確保に努めます。市民アカデミー地域協働講座やシニア活動講演会では講座の内容等をシニア層等が関心が高いと思われる身近なテーマを選定するなどの工夫により参加者増に努めるとともに、収支を考慮した企画の見直しを図ります。 ・ランチタイムロビーコンサートは、ホームページで積極的にPRするとともに、周辺の町内会や商店街の店舗などにも幅広く広報します。オカリナやウクレレなど普段聞くことが出来ない様々な種類の楽器演奏や声楽家による歌唱なども実施し、多くの方に満足いただけるような企画を提案します。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 ①かわさき市民アカデミー協働事業 ・市民アカデミー講座について、広報の協力、会場確保、オンライン講座実施に向けた支援を行い、受講者は5,776人(令和4(2022)年度より89人増)でした。 ・開学30周年記念行事とタイアップしたアカデミーフェスタには、603人(令和4(2022)年度より108人増)が参加しました。市民アカデミーの開講式は116人(令和4(2022)年度より54人増)、受講生のつどいは70人の参加(令和4(2022)年度より18人減)がありました。 ②青少年学校外活動事業 ・「ふれあいサマーキャンプ」は予定通り実施し、4コース合計103人(令和4(2022)年度より28人増)が参加しました。受入事業として、古座川町の小学生を川崎に迎える受入事業は、8人参加しました。 ・「キッズセミナー」については、収支面での課題を踏まえ、受講者が多く集まる16の講座に絞り実施しました。受講者は481人で、令和4(2022)年度より18人増えました。「子ども陶芸教室」は令和4(2022)年度より5人増え、20人が受講しました。 ③シニア活動支援事業 ・学習した知識・経験を活かし地域貢献を目指す目的で、かわさき市民アカデミーと協働で大学等高等教育機関・地域団体・企業等と連携した講座として「地域協働講座」を実施し、受講者は延べ375人(令和4(2022)年度より50人増)でした。 ・「生涯学習ボランティアの養成・派遣」について、PCボランティア養成講座は12人(令和4(2022)年度より1人増)が受講しました。 ・ボランティアについては、PCボランティア延べ92人(令和4(2022)年度より48人増)、環境学習ボランティア延べ52人(令和4(2022)年度より28人減)、陶芸ボランティアは延べ16人(令和4(2022)年度より2人減)を派遣しました。 ・「シニア活動講演会」については中原市民館と共催し、「シニアからの俳句の楽しみ方とメリット」というテーマで45人(令和4(2022)年度より32人減)が受講しました。 ④その他支援事業 ・「ランチタイムロビーコンサート」は、令和4(2022)年度と同様、年間12回実施し、延べ790人(令和4(2022)年度より295人増)が参加しました。最近では、近隣の町内会へのチラシ配布や正面入口の看板等による広報により、常連客も増えてきています。今後も引き続き市民の皆様の声や期待に応えられるよう企画の内容を工夫します。 ・中原区との共催による「ミミケロ子育ておしゃべり広場」については、9回実施し、延べ176人(令和4(2022)年度より8人増)参加しました。 【指標2関連】 シニア活動支援事業、市民アカデミー地域協働講座については、満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満の5段階のうち、満足とやや満足の合計の比率が平均で86%となり、目標値を上回りました。
----------------	---

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業参加者数		目標値		9,000	9,500	10,000	10,500	人
	説明	事業参加者数で測ります。	実績値	7,327	8,140	8,735			
2	事業参加者満足度		目標値		81	82	83	84	%
	説明	事業参加者の満足度で測ります。 (シニア活動支援事業、市民アカデミー地域協働講座) ※R5年度の個別設定値:77.9(目標値の95%) ※R6年度の個別設定値:78.9(目標値の95%) ※R7年度の個別設定値:79.8(目標値の95%)	実績値	—	86	86			
指標1 に対する達成度		b	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						
指標2 に対する達成度		a							

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

・事業参加者数は、講座内容の見直しなどの効果により、令和4(2022)年度よりも595人増加しましたが、「かわさき市民アカデミー」参加者数が令和2(2020)年度に新型コロナウイルス感染症の影響から減少して以降、令和元(2019)年度の参加者(7,217人)の水準を下回る状況が続いているため、目標値には達しませんでした。

・地域協働講座における「子育て応援講座」は、区役所等で同様の講座が無料で実施されていることを鑑み、当該講座を休止し、新たに対象や内容の見直しを図りシニア向けの講座を新設し、受講者数の増加につなげました。老後の資金や健康、生きがいづくりについてなど、シニア層に関心が高い話題を取り入れたシニア向け講座はニーズがあるものと考えていますので継続実施いたします。

・満足度は、満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満の5段階に分け、そのうち満足とやや満足の合計の比率を講座ごとに調査したものを平均したところ86%となり、目標値を上回りました。日々の受講者の声を捉え、事業立案を行ってきたことから、アンケートの満足度が高かったものと考えています。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	「事業参加者数」について、目標値には達していませんが、参加者の少ない教室を見直し、新たな教室の開催や広報や講座のテーマ選定などの工夫を行ったことにより、令和4(2022)年度の実績値を上回り、また、「事業参加者満足度」については、日々の受講者の声を捉え、事業立案を行ってきたことにより、目標値を達成したため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		19,240 (27,461)	19,240 (27,461)	19,240 (27,461)	19,240 (27,461)	千円
	説明	本市財政支出 (直接事業費)	実績値	20,175 (25,377)	20,460 (25,576)	20,420 (26,654)			
行政サービスコスト に対する達成度		2)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上						

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

行政サービスコストについて、本市財政支出は、青少年学校外活動事業の古座川町小学生受入れ再開に伴う負担金の増加、シニア活動支援事業の新たな教室等に対応するための人件費の増加にあわせ、市からの補助金の配分を見直し、一般管理費への充当額を減少し、青少年学校外活動事業、シニア活動支援事業への充当額を増額したことにより、目標値の範囲を超えました。

直接事業費は、青少年学校外活動事業の古座川町小学生受入れ再開に伴う負担金の増加、シニア活動支援事業の新たな教室等に対応するための人件費の増加等により、令和4(2022)年度よりも増加しましたが、当初見込みの範囲内となっています。

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコスト」に対する達成度)等を踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2) 行政サービスコストについては、青少年学校外活動事業の負担金等の増加にあわせ、補助金の充当額を増加したことにより、本市財政支出が目標値の範囲を超えましたが、本市財政支出の実績値は、目標値の106%であり、増加理由についても補助金充当額の配分変更を行ったことによるものであること、「事業参加者数」については、目標値には達していないものの、「事業参加者満足度」は、日々の受講者の声を捉え、事業立案を行ってきたことにより、目標値を達成していることから概ね十分であると考えられるため。

改 善（Action）		
実施結果(Do) や評価(Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分	
	方向性の具体的内容	
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I ・市民のニーズを的確に捉え、これまで参加者が少ない講座については、講座の内容を検討し、より一層講座自体に魅力を感じられるようなテーマや講座内容・実施手法等の企画・立案に努め、事業参加者の定着と増加を図ります。 ・今後も求められる新たなニーズに沿う事業展開を工夫していきます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

本市施策推進に向けた事業取組②(令和5(2023)年度)

事業名	生涯学習に関する情報収集、情報提供及び調査研究事業
計 画 (Plan)	
現状	生涯学習プラザ情報コーナーの紙媒体情報、生涯学習情報誌「ステージアップ」による情報提供を行うとともに、本法人が運営するホームページ「かわさきの生涯学習情報」で川崎市や関連施設・団体等の生涯学習情報を広く情報発信・提供しています。
行動計画	- 引き続き、生涯学習プラザ情報コーナーの紙媒体情報や生涯学習情報誌での情報提供を行うとともに、本法人が運営するホームページ「かわさきの生涯学習情報」で川崎市や関連施設・団体等の生涯学習情報を広く情報発信・提供していけるようにホームページの充実を図ります。 - また、情報提供元と連絡を密にし、情報収集の拡充に取り組みます。
具体的な取組内容	- 生涯学習関連施設・団体の事業情報等、民間教育機関を含めより多くの情報源から積極的に情報収集を行い、丁寧な情報発信に努めます。ホームページは訪問者が増えている特集ページを今後も充実していきます。春は「花見・春のイベント情報」、夏は「子ども向けイベント情報」、秋は「本を身近にするための様々なサービス情報」「芸術や文化にふれる・参加する情報」など、対象や視点を明確にした情報を発信していきます。 - また、市が発信する新たな事業や施策に基づいた情報等も積極的に収集し、発信していきます。 - 生涯学習情報誌「ステージアップ」の発行により、市内で活躍している市民や団体の活動を広く紹介します。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 - 市民が生涯学習のきっかけや場を探したり、自身の持つ知識や技術を地域に活かすことができるよう、継続して「講座・イベント情報」「生涯学習関連施設情報」などの生涯学習情報を掲載しました。また、令和4(2022)年度から継続して、分野・地域・日程・フリーワードなどによる検索を可能にすることで、求める情報を速やかに得ることができるページとなるように工夫しています。 - また、非常に人気の高いホームページの特集コーナーは、春にはお花見イベント、夏には子ども向け特集等、季節ごとに市民の関心が高いテーマを選んで情報発信しました。 - 市制100周年については市が主催する事業や、「KOSUGI iHUG」「フロンタウン生田」「FUSOグリーンガーデン」等の公共施設の跡地などを利用して活躍している団体を紹介するなど、新たな切り口での広報にも努めています。 【指標2関連】 市民に広く情報提供を行うため、生涯学習に関わる関連施設・諸事業や人材・団体情報等の情報収集を行い、市民からの生涯学習に関する相談に丁寧に対応しました。 【その他】 - 生涯学習情報誌「ステージアップ」は、市内で活躍する市民や団体、グループ活動を記事として取り上げ紹介したり、財団や市民アカデミー主催の講座やイベント、生涯学習関連施設等を紹介するなど、生涯学習に関する情報の周知・啓発にも留意して、年4回、各7,500部発行しました。また、文化財団の事業で進めているパラアートの取組に協力して、施設内の壁面を作品展示ができるように提供するとともに、表紙の絵をColorsかわさきに出版されている作品から選出させていただくなど連携して取り組みました。多くの市民の目に触れるよう、各種公共施設や銀行・信用金庫・農協等に配架を依頼しました。 - 令和4(2022)年度まではコロナ禍の影響で取材が困難ではありましたが、令和5(2023)年度は市内全域で活躍するグループや施設等を多く紹介することができ、多くの感想や御意見が寄せられました。
----------------	---

評価 (Check)

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	ホームページアクセス数		目標値		184,000	220,000	267,500 222,500	270,000 225,000	件
	説明	情報の発信・提供の効果を具体的なセッション件数で測ります。	実績値	215,584	263,434	376,225			
2	学習情報掲載件数		目標値		2,050	2,100	2,150	2,200	件
	説明	学習情報の掲載件数で測ります。	実績値	2,161	2,527	2,343			

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	a	

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

・ホームページへのアクセス数については、「子どものための夏の講座」といった市民の関心が高いテーマで特集を掲載するなどアクセス数の増加に努めているところですが、特集記事の掲載を令和4(2022)年度は年6回であったものを令和5(2023)年度については、14回に増やしました。アクセス数の大幅な増加についてはその効果があったものと考えています。また、過去のバックナンバーを一覧化して掲載することで、多くの多様な情報を発信することができました。

・学習情報掲載件数については、各団体のホームページを定期的に検索し、財団ホームページへ掲載できるよう依頼するなど積極的に情報収集に努めたことで実績値は目標値を上回りました。

	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A 市民のニーズに沿った適時性のある特集を組んだ結果、成果指標である「ホームページアクセス数」が、目標値を上回り、また、学習情報を積極的に収集・提供した結果、「学習情報掲載件数」についても、目標値を上回ったため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		10,911 (12,522)	10,911 (12,522)	10,911 (12,522)	10,911 (12,522)	千円
	説明	本市財政支出 (直接事業費)	実績値	9,064 (11,745)	9,500 (12,473)	10,227 (11,951)			
行政サービスコスト に対する達成度		1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上						

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

・行政サービスコストについて、本市財政支出は生涯学習情報事業の委託料の増額などにより、令和4(2022)年度よりも増加しましたが、目標値の範囲内となっています。

・各種事業の募集開始時に多くのチラシを作成、配布・配架を行っていたものを、デジタルサイネージを利用した案内と併用することにしました。そのため、印刷製本費等の削減を図ることができ、行政サービスコストの目標値を達成することができました。デジタルサイネージを活用することで、紙媒体が減少したことから、配架スペースを利用者の申請時や受付時などの待機場所として一層有効活用することができました。

・また、物価上昇に伴い、印刷製本費が高騰しましたが、印刷費用を軽減するために、要覧を手作りするとともに、通信運搬費(切手代)を抑えるため、通常郵送していたものを町内会や近隣施設には直接持参するなど、令和4(2022)年度に引き続き経費の削減に努めたことも目標達成の一因と考えます。

	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコスト」等を 踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(1) 印刷製本費及び通信運搬費の削減により、行政サービスコストの目標値の範囲内となり、本市施策推進に関する指標についても目標値を達成したため。

改 善（Action）		
実施結果（Do） や評価（Check） を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分	
		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II ・ホームページのアクセス数については、目標値を上回る実績値となったことから、令和4（2022）年度に令和3（2021）年度の実績値を起算値として、目標設定の見直しを行いました。令和5（2023）年度についても目標値を大きく上回る高い実績となったことから、実績を踏まえて令和4（2022）年度を目標値の起算値とし、令和7（2025）年度に向け、年間2,500件（3年間で7,500件）の増加を目標値として設定しました。 ・ホームページアクセス数については、今後も新たな切り口での特集を充実させることで、新たなユーザーを獲得並びに既存ユーザーの一層の定着化を図ります。 ・生涯学習を行う各機関や団体が持つ生涯学習情報を、積極的に収集・整理し、広く情報発信に努めます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

本市施策推進に向けた事業取組③(令和5(2023)年度)

事業名	寺子屋先生養成事業
計 画 (Plan)	
現状	市からの委託を受け、市内の各校で実施されている「地域の寺子屋事業」で学習支援の活動をする寺子屋先生を養成する講座を各区で開催しています。
行動計画	寺子屋先生として活躍する人材の確保を図るため、「地域の寺子屋事業」の拡充に合わせて市と連携しながら、寺子屋先生養成講座を実施します。
具体的な取組内容	「地域の寺子屋事業」において、市と連携し寺子屋先生を養成する講座を市内各所で9期開催し、受講生の増加に努め、寺子屋事業を支える人材の確保を図ります。講座内容については、アンケートで受講者から寄せられた意見等を以降の講座の参考とし、受講生から高い満足度が得られるよう努めます。また、小学校と中学校の両方の寺子屋先生になることを希望する方もいらっしゃることから、今年度は両方の内容を盛り込んだ講座を1回開催します。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 寺子屋先生養成講座は、寺子屋先生を必要としている地域で講座を開催したり、寺子屋の開講数が小学校と比較して少ない中学校の講座を2回、小中学校同時の講座を1回と、内容をよりニーズにあわせて実施しました。計画どおり9期実施し138人が受講しました。なお、令和4(2022)年度に引き続き実施した広報については、ホームページ、チラシ配架に加え、他の事業や講座等への参加者に向けた広報・周知も行いました。 【指標2関連】 期ごとにアンケートを実施したところ、寺子屋先生として実際に事業に参加した方の体験談や受講生同士のグループワークなどが好評であったことから、その内容を充実することで、高い満足度が得られるように努め、受講者の声を講座の内容や構成に反映させました。講座開催時における受講者同士の会話や相談内容から、寺子屋先生として子ども達のために活動したいという受講者が大勢いらっしゃることがわかりました。また、受講者からの質問をQ&Aとしてまとめたほか、「受講から寺子屋先生になるまでの流れ」をわかりやすくまとめ、ホームページに掲載しました。
----------------	---

評 価 (Check)

本市施策推進に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	寺子屋先生養成講座を受講した人数	目標値		150	165	180	195	人
	説明 寺子屋先生養成講座を受講した人数で測ります。	実績値	198	184	138			
2	寺子屋先生養成講座受講者満足度	目標値		81	82	83	84	%
	説明 事業参加者の満足度で測ります。 (シニア活動支援事業、市民アカデミー地域協働講座) ※R5年度の個別設定値:77.9(目標値の95%) ※R6年度の個別設定値:78.9(目標値の95%) ※R7年度の個別設定値:79.8(目標値の95%)	実績値	—	98	99			

指標1 に対する達成度	C	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満
指標2 に対する達成度	a	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

・寺子屋先生養成講座の令和5(2023)年度の受講した人数は、138人であり、令和4(2022)年度の184人との比較では減少し、目標値を下回りました。令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け開催数を減らした結果、令和3(2021)年度、令和4(2022)年度は控えていた受講希望者が多く応募したため、受講者数が大幅に増加しました。令和5(2023)年度の受講者数は、令和元(2019)年度(受講者129人)の水準に戻ったと考えられます。

・満足度については満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満の5段階のうち満足とやや満足の合計の比率が99%と高い満足度を得ることができました。毎回、受講者からの質問や感想をいただき、次の回で質問・疑問点を解消するとともに、感想を共有するなどの取組を行ったことが高い満足度につながったものと考えています。

本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	C 「寺子屋先生養成講座を受講した人数」については、目標値を達成できませんでしたが、受講者から受けた質問や感想は、次の回で回答し、疑問点を解消するとともに、感想を共有することにより、「寺子屋先生養成講座受講者満足度」については、目標を達成することができたため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		858 (858)	858 (858)	858 (858)	858 (858)	千円
	説明	本市財政支出 (直接事業費)	実績値	742 (742)	835 (835)	1,091 (1,091)			
行政サービスコスト に対する達成度		4) 1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上							

法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)

行政サービスコストについては、全てが市からの委託料となっています。物価高騰の影響を受け、委託契約金額が上昇したため目標値の範囲を超えました。

本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を 踏まえ評価)	区分	区分選択の理由
		(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2) 行政サービスコストについては、全てが市からの委託料となっており、物価高騰の影響を受け、委託契約金額が上昇したため目標値の範囲を超えたことや受講者数が目標値に及ばなかった点がありますが、限られた経費の中で効率的、効果的な事業執行に努めており、講座の内容を受けて参加者の満足度は目標値を大きく上回っており、寺子屋先生養成講座の使命を果たしたと考えられるため。

改善(Action)

実施結果(Do) や評価(Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	II	令和6(2024)年度は寺子屋先生養成事業を受託できませんでしたが、引き続き中間支援組織として、市や関係団体等と連携し、広報などで寺子屋事業に協力をしていきます。また、令和7(2025)年度の受託に向けて講座内容の検討など準備を行います。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

2. 経営健全化に向けた取組①(令和5(2023)年度)

項目名	自主財源の増加
計 画 (Plan)	
現状	生涯学習プラザの会議室等の貸出を行っているほか、収益事業として、市民が体力や健康状況に合わせたトレーニングやエクササイズなどに気軽に参加することで、健康な身体づくりや受講生同士の交流を目指すスポーツ教室、手軽に興味や生活技術を学ぶことや受講生同士の交流を目指す文化教室、陶芸を通して作品に対する豊かな感性を磨くとともに、技術の習得や受講生同士の交流を目指す陶芸教室などを実施しています。また、学習した知識・経験を生かし地域貢献を目指す地域協働教室なども実施しています。
行動計画	公益財団法人としての使命をより積極的に果たしていくため、収益事業・施設提供事業等による収益増によって、安定的な経営基盤の確保を図ります。
具体的な取組内容	・授業料等収入の増額を図るため、応募の少ない既存の講座の見直し、特別講座を活用した新規講座の開設を行います。陶芸教室については、人気の高い「ろくろ」を特別講座として追加実施し、効果を検証します。また、前年度に夜間講座として試行実施した俳句講座については受講生の確保が見込めることから、今年度も引き続き開催します。募集定員に対する充足率は令和4(2022)年度に89.92%とコロナ禍前の水準程度に高まった実績を踏まえ、さらなる充足率の向上に努めます。 ・施設使用料収入の増額を図るため、修繕等を行うことで快適な環境を整備し、さらなる利用促進を図ります。また、202会議室に移動式ミラーを整備することで、ダンス系グループ等の夜間利用を含んだ利用促進につなげていきます。

実施結果 (Do)

経営健全化に向けた活動実績	【指標1関連】 ・「スポーツ教室」延べ13,588人(令和4(2022)年度より6人減)、「文化教室」延べ1,479人(令和4(2022)年度より215人増)、「陶芸教室」延べ3,802人(令和4(2022)年度より140人増)が参加しました。 ・募集定員に対する平均充足率は、令和5(2023)年度は90.42%となり令和4(2022)年度の89.92%から上昇しました。充足率が低かった教室を別の教室と入れ替えたり、受講者の声を講師と共有したりなどの取組を行った結果、充足率が高まりました。 ・ろくろの特別講座については、陶芸教室の在籍受講者を対象にしたものですが、これまで1教室であったものを2教室に増やして実施し、キャンセル待ちで受講できなかった方が受講できるようになったことから、受講者からも好評でした。 ・夜間の施設利用増の手法の一つとして計画していた夜間の俳句教室については、講師の日程があわず実施できませんでしたが、トランプゲームの一つであるブリッジの講座を開催しました。参加者は多くありませんでしたが参加された方には好評でした。 【指標2関連】 ・ロビーに掲示していた、行事予定表をデジタルサイネージ化することにより、行事予定表の前で立ち止まる方が増え、「とても見やすくなった」と好評の声をいただいています。 ・202会議室に移動式ミラーを整備することで、これまで別の部屋を利用していた団体が、本会議室でも活動ができるようになり、場所の選択肢が増えたと喜ばれています。 ・全館内外の照明のLED化により会議室など机上の資料や黒板が見やすくなったと大変喜ばれ、施設利用に繋がったと考えています。 ・今後も施設使用料収入の増額を図るため、当施設のキャンセル状況をホームページ上に迅速に掲載し、空いた施設の予約ができるようにホームページの改修を検討するなどキャンセルにより空いた会場を活用できるよう取り組んでまいります。
---------------	--

評価 (Check)									
経営健全化に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	授業料等収入の増加		目標値		27,746	28,578	29,436	30,319	千円
	説明	授業料等収入の増加により測ります。	実績値	25,371	27,694	29,383			
2	施設使用料収入の増加		目標値		22,437	22,886	23,344	23,810	千円
	説明	施設使用料収入の増加により測ります。	実績値	22,735	26,234	25,927			
指標1 に対する達成度		a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						
指標2 に対する達成度		a							
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
・授業料等収入については、スポーツ・文化教室において、募集定員に対する充足率の低い教室を別の教室に変更したことによる充足率の向上と、陶芸教室においてろくろの特別講座の教室を増やすことにより、受講者を増やすことができたことで、収入の増加につながり、目標値を達成することができました。また、広報手段として新たにSNS「X(エックス)」の活用にも取り組み、ホームページとも併用するなど、多様な広報を行ったことも、教室における充足率を上げることができた要因であると考えています。 ・施設使用料収入については、施設整備(令和4(2022)年度に行った多目的ルームの壁面全面改修やフィットネスルームの暗幕及びレースカーテンの全面改修など)や全館内外の照明のLED化(令和6(2024)年2月工事完了。)等により、施設の利用環境を向上させることで、多くの集客を呼び込むことができ、目標値を達成することができました。									
本市による評価	達成状況		区分		区分選択の理由				
			A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った		A 授業料等収入については、人気のある集客力の高い教室については定員を増やしたり、施設使用料収入については、施設の利用環境を向上させることなどにより、目標値を上回ったため。				

改善 (Action)		
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	・授業料収入等について、利用者アンケートにより既存教室の魅力向上に努めるとともに、新たなターゲットを想定した新規教室の計画を進め、実行することで増加につなげていきます。また、SNSを有効活用した広報の多様化に一層取り組みます。 ・施設使用料の増加を目指すためにこれからも引き続き親切丁寧なサービスの提供と老朽化した施設の整備により、さらなる利用促進につなげていきます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

経営健全化に向けた取組②(令和5(2023)年度)

項目名	収支改善
計 画 (Plan)	
現状	経常収支の改善に向けこれまでも組織体制や事務分担、委託業務、事務経費など恒常的な経費の見直しを行い、収益の改善並びに経費の削減に取り組んでまいりましたが、平成22(2010)年度から恒常的な赤字が続いています。
行動計画	組織体制や事務分担、委託業務、事務経費など恒常的な経費の見直しにより効率性を高め、コスト縮減を図るとともに、安定的な財政基盤の確保のため収入の増加に努めます。引き続き収支均衡に向けて、経常収支比率の改善や正味財産の逓減を抑制するための取組を行います。 ※指定管理料については、大山街道ふるさと館が令和5(2023)年度に指定管理期間が終了することから、今後継続の可否により数値が変動する可能性があります。
具体的な取組内容	電気、ガス料金の高騰に伴う光熱水料費の支出増加や諸物価高騰に伴う諸経費の支出が増加しているものの、委託業務の仕様見直しや事務経費等の恒常的な見直しを進めることにより、コスト削減を図ります。また、授業料や施設使用料等の収入増加に向けた取組を継続することで一層の収入増加を図り、引き続き収支均衡に向けて取り組みます。また、正味財産については、経常収支を改善することにより、逓減の抑制に努めていきます。

実施結果 (Do)

経営健全化に向けた活動実績	・受講者の各事業への意見を講師と共有し、内容を見直す等事業内容を工夫することで受講者の満足度・参加率がともに上昇し、授業料等収入を増やすことができました。また、行事予定表のデジタルサイネージ導入や各貸部屋の設備を整備するなど、学習環境の快適性の向上を図り、安定的な施設使用料収入の確保に努めました。 ・全館照明にLEDを導入するとともに、ロビーや各室の未使用時の消灯の徹底、冷暖房の運転についても運転時間を抑制するよう管理者に依頼するなど施設管理費の節減を図り、その他の支出では委託費、賃借料、印刷製本費、消耗品費の見直しなどにより、収支の均衡に取り組みました。 ・大山街道ふるさと館の指定管理者として、令和6(2024)年4月1日から令和11(2029)年3月31日まで指定されました。
---------------	--

評価 (Check)

経営健全化に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	経常収支比率の推移		目標値		98.7	99.2	99.7	100.2	%
	説明	事業活動の結果である経常収益とそれに費やした経常費用の割合	実績値	100.2	99.6	101.2			
2	正味財産の推移		目標値		283,704	281,132	280,124	280,717	千円
	説明	出捐者から受け入れた指定正味財産と、本業から得られた過年度経常収支差額の合計	実績値	295,312	293,864	297,490			
指標1 に対する達成度		a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満						
指標2 に対する達成度		a	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						

法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)

・各事業参加者の意見をもとに事業内容を工夫するなど、参加者のニーズを捉えた事業展開をすることで、参加者を増やし授業料等収入の増加に取り組むとともに多目的ルームの壁面全面改修などにより、施設の利用環境を向上させることで、施設使用料収入の増加に取り組み、経常収益を増加させることができました。

・社会の物価高騰に対応して光熱水費や事務用品など適切な執行に努め、今年度の施設改修としては照明器具のLED化などにより、経常費用の抑制を行うことができました。

・経常収益の増加及び経常費用の抑制により、経常収支比率の推移及び正味財産の推移の目標値を達成することができました。

本市に
よる評価

達成状況

区分

- A. 目標を達成した
 B. ほぼ目標を達成した
 C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった
 D. 現状を下回るものが多くあった
 E. 現状を大幅に下回った

A

区分選択の理由

事業内容見直しにより授業料等収入が増加したことなどから、成果指標である「経常収支比率の推移」及び「正味財産の推移」の目標値を達成したため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	・収支改善の目標値は達成しましたが、引き続き施設使用料収入および授業等料収入などの収益の増加、経営上の工夫や努力を重ねながら、経営状況の安定化及び経常収支比率の均衡に取り組めます。 ・近年の光熱水料費などの諸物価の高騰へは適切に対応するとともに、公益事業費の確保等の課題について、次年度以降も改善策の検討を進めます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

3. 業務・組織に関する取組①(令和5(2023)年度)

項目名	人材育成研修の実施
計 画 (Plan)	
現状	職員等の意欲や能力向上を目的に研修を実施し、人材育成を行っています。
行動計画	社会的ニーズや時節に応じた研修など今必要な研修を実施し、人材育成研修の充実を図ります。
具体的な取組内容	業務理解・業務推進のため、インボイス制度や電子帳簿保存義務化等、職員間で共通するべき事柄について、適時・適切な研修を実施し、人材育成の充実に努めます。

実施結果 (Do)

業務・組織に関する活動実績	【指標1関連】 インボイス制度や電子帳簿保存義務化に伴う研修や適切な事務処理を執行するための研修など、喫緊の課題解決のための研修を実施し、職員の人材育成に努めました。
---------------	--

評 価 (Check)

業務・組織に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	研修の参加人数		目標値		92	93	94	95	人
	説明	研修の参加人数により測ります。	実績値	88	123	107			
指標1 に対する達成度		a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
研修の参加人数については、インボイス制度や適切な事務処理を執行するための研修などを開催したことにより、実務上必要な研修を多くの職員に受講させることができました。									

本市
による評価

達成状況	区分		区分選択の理由
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあがる 一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	
			実務に直結したインボイス制度や適切な事務処理を執行するための事務研修等を実施することで、成果指標である「研修の参加人数」の目標値を上回ったため。

改 善 (Action)

実施結果(Do) や評価(Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	
			引き続き、計画的な研修や、社会的ニーズ・時節に応じた研修など今必要な研修を実施し、職員の資質・能力向上に努めます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
----------	-----------------	-----	----------------------

業務・組織に関する取組②(令和5(2023)年度)	
項目名	事業・業務の点検
計 画 (Plan)	
現状	毎週1回開催する運営調整会議及び毎月1回開催する経営委員会で、各事業・業務の成果と課題の検証を行っています。会議の中では、課題に対して実際のデータを参照しながら課題解決に向け、話し合いを行っています。
行動計画	毎週1回開催する運営調整会議及び毎月1回開催する経営委員会で各事業・業務の点検評価を行うことで、課題解決や改善点を迅速に各事業・業務に反映するとともに、次年度の事業計画にも反映します。
具体的な取組内容	毎週水曜日に開催する運営調整会議及び経営委員会(主に第2水曜日に開催)で、各事業・業務の点検評価を行うことで課題や改善点を迅速に各事業・業務に反映するとともに、次年度の事業計画にも反映します。また、点検結果については理事会で報告します。

実施結果 (Do)	
業務・組織に関する活動実績	【指標1関連】 ・運営調整会議や経営委員会において、各事業の実施状況や運営体制などの財団における喫緊の課題について、随時協議を行いました。 ・経営改善計画の遂行状況をはじめ、貸館や各種事業の進捗状況、高騰する光熱水料費への対応、施設使用料収入の見込など、施設運営を多角的に捉えるとともに、様々な案件を継続的にとり上げ、経営改善に向けた検討を行いました。

評 価（Check）									
業務・組織に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	実施回数		目標値		49	49	49	49	回
	説明	実施回数により測ります。		実績値	46	48	49		
指標1 に対する達成度			a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
運営調整会議や経営委員会を適切に開催し、年間を通して課題解決に向けた検討を進めることが出来ました。上半期はスポーツ教室・文化教室・陶芸教室などの実施計画について検討し、陶芸教室に参加される方の新規開拓を図るため、初心者向け陶芸教室を開催することを決めました。また、広報手段についても検討し、生涯学習プラザをより一層広報するためXなどのSNSを新たに活用することを決めました。今年度の収支や施設改修の見込み等を協議し、関係団体や職員に対して工事期間の状況や協力体制について周知を図りました。下半期は上半期の取組の事業検証を行うとともに、職員の人事評価制度導入に向けた検討を行いました。また、来年度の事業計画の立案、予算編成、収支改善に向けた検討を行い、令和6(2024)年度の計画に反映しました。									

本市による評価	達成状況	区分		区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	毎週予定日に会議を開催し、各事業等の状況を適切に情報共有を図ることができたのみならず、経営改善に向けた方策を定期的に話し合いを行い、事業計画等に反映させることができたため。

改 善 (Action)		
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分	方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	事業・業務の点検については、課題の共有や検討、施策の推進などについて、年間通して継続的に協議を図る体制づくりに努めていきます。

法人(団体名)	公益財団法人川崎市生涯学習財団	所管課	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課
---------	-----------------	-----	----------------------

●法人情報

(1) 財務状況

収支及び財産の状況(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)						
	経常収益		313,619	316,673	318,558		
	経常費用(事業費)		229,227	233,332	232,499		
	経常費用(管理費)		83,849	84,518	82,431		
	うち減価償却費		89	89	118		
	当期経常増減額		543	△1,178	3,628		
	経常外収益						
	経常外費用			270	2		
	税引前当期一般正味財産増減額		543	△1,448	3,626		
	当期一般正味財産増減額		543	△1,448	3,626		
貸借対照表	(指定正味財産増減の部)						
	当期指定正味財産増減額						
	正味財産期末残高		295,312	293,864	297,490		
	総資産		308,359	307,750	308,907		
	流動資産		33,179	34,716	35,821		
	固定資産		275,180	273,034	273,086		
	総負債		13,047	13,886	11,416		
	流動負債		13,047	13,886	11,416		
	固定負債						
	正味財産		295,312	293,864	297,490		
主たる勘定科目の状況(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
経常収益	事業収益		48,106	53,929	55,859		
経常費用	人件費(事業費+管理費)		73,264	74,917	76,033		
総資産	特定資産		73,864	71,545	71,571		
総負債	有利子負債(借入金+社債等)						
本市の財政支出等(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
補助金			141,811	141,812	141,812		
負担金							
委託料			10,795	10,044	8,232		
指定管理料			105,165	105,165	105,923		
貸付金(年度末残高)							
損失補償・債務保証付債務(年度末残高)							
出捐金(年度末状況)			200,000	200,000	200,000		
(市出捐率)			100.0%	100.0%	100.0%		
財務に関する指標			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
流動比率(流動資産/流動負債)			254.3%	250.0%	313.8%		
有利子負債比率(有利子負債/正味財産)							
経常収支比率(経常収益/経常費用)			100.2%	99.6%	101.2%		
正味財産比率(正味財産/総資産)			95.8%	95.5%	96.3%		
経常費用に占める市財政支出割合 ((補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常費用)			82.3%	80.9%	81.3%		
経常収益に占める市財政支出割合 ((補助金+負担金+委託料+指定管理料)/経常収益)			82.2%	81.2%	80.4%		

法人コメント			本市コメント			
現状認識		今後の取組の方向性	本市が今後法人に期待することなど			
令和5(2023)年度につきましては、コロナ禍の影響から脱却し、授業料収入・施設使用料収入のいずれもコロナ前の水準である令和元(2019)年度を上回ることが出来ました。 授業料等収入については、参加者の少ない教室を見直して新たな教室を開催したことや、参加者が多い教室は講師の指導可能な範囲で定員を増加するなどの工夫により増加させることができたと考えています。施設使用料収入については、多目的ルーム壁面の全面改修や照明器具の全面LED化などの、施設の利用環境向上により目標値の達成につながったものと考えています。 また、光熱水費については、価格高騰の影響がありましたが、電気・ガスの節約及び照明器具のLED化により、令和4(2022)年度より減少させることができました。これらの成果により、正味財産期末残高を増加に転じさせることができました。		令和5(2023)年度に引き続き各種事業はテーマ選定の工夫や広報の充実、参加者のニーズに応えた事業提案などにより、教室参加者数の増を目指します。 施設使用については、利用率の比較的低い夜間の時間における利用促進につなげる取組を進めます。また、施設の利用率向上については、周辺施設や学校施設と財団施設を同時に申し込み、安価で利用できる施設が取れた段階でまとめてキャンセルされるケースが多く見受けられるため、キャンセル後の施設空き状況を速やかにホームページ上で紹介する方法やキャンセル情報を希望する団体あてに即座に情報提供できるシステムを構築することで少しでも空きの状態を減らす取組を進めていきます。 また、財団全体で経費節減に一層取り組み、光熱水費の使用抑制による節減、委託の仕様の見直しなどにより経費節減に向けた取組を進めます。	令和5(2023)年度は、授業料等収入など、自主財源の確保を図るとともに、管理費の縮減にも努め、「自主財源の増加」及び「収支改善」における各指標の目標値を達成できたことは、評価できます。 引き続き収入の増加と管理費の縮減に努めるとともに、安定的な財務基盤の確保に向けた取組を着実に進め、収支均衡のとれた自主・自立した経営を目指す必要があります。 今後も公益財団法人としての使命をより積極的に果たしていくため、公益事業の充実を図るとともに事業参加者数の増加や施設の利用率向上に取り組み、収益事業による自主財源の確保や事務経費などの節減を通じて、安定的な経営基盤を確保した運営を期待します。			

(2) 役員・職員の状況(令和6年7月1日現在)

	常勤(人)			非常勤(人)		
	合計	(うち市派遣)	(うち市OB)	合計	(うち市在職)	(うち市OB)
役員	2	0	2	7	0	1
職員	5	0	4	24	0	7

【備考】

●総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解
・理由

・今後の方向性